#3 感染症危機管理研修会 レジュメ

災害医療現場の実相 ～サリン、原発…、想定外の現場から～
-組織論・統率論の視点も加えて-

前 陸上自衛隊 部隊訓練評価隊長
元 1等陸佐 近藤 力也

感染症とは関係ありませんが…、危機管理に携わる皆さんの参考になりそうな話をさせて頂きます。
① 危機管理を行う組織の在り方 ②危機管理に携わる者の心構え ③平素からの訓練の必要性
…といった観点から、お聴き頂ければ幸いです。 *※飽くまで個人の見解です。*

【東日本大震災における教訓から】

○ 情報の収集、分析
- 当初の混乱 思い込み…×、見たまま聞いたまま…○
- 情報の処理 あらゆるツールの活用、情報が上がってこない場合とは…

○ 関係者の参集
- 直前の訓練（＝顔合わせ）が奏功、組織間の連携の重要性
- 連絡手段の確保 携帯不通、無線も不通、衛星携帯

○ あるべき組織とは
- 当時の現地対策本部の状況
- 指揮階梯（Chain of Command）とは 方針の明確化、「指揮の要訣」(陸自式)
- 平時と有事の組織の違い ： 有事は軍事的ピラミッド型組織で権限を集中
- 権限の委譲、分権指揮（decentralization）とは

○ 現場の状況判断
- 総合的な情報収集体制の必要性
- 孤立した状況での指揮官の判断
- 思い込みの排除（正しく恐れる）

○ 指揮官の覚悟と率先
- 想定外の現場、想定外の事態への対応
- 瞬時の判断 何を優先するのか

○ 法律的見地からの検討
- 当時の政府、自治体の対応
- 災害対策基本法と国民保護法
- 災害緊急事態の布告、憲法の緊急事態条項
- 避難に関わる未解決の問題 研究者の紹介

【地下鉄サリン事件における教訓から】

○　阪神淡路大震災の教訓に基づく現場進出

・　現場進出の「遅れ」（規則上の制約）

・　事前の訓練なし。緊急通行車両の指定なし。

○　不十分な装備、使えるものは使う

○　指揮官の覚悟と率先

・　有毒化学剤の検知

・　決死の除染、平素からの訓練の意義

○　聖路加国際病院の対応

・　院長の即断即決 「責任はとる。全ての患者を受け入れよ！」　…福島原発との差異

・　有事拡張型の施設

・　自衛隊と平素からの連携

・　訓練の在り方 ： 最大規模、関係機関連携、シナリオ型の排除

【結　言】

○　平素からの訓練、イメージアップ、訓練評価の視点とは？

○　平素からの関係機関との連携

○　現場責任者の「覚悟と率先」

タカラベルモント株式会社
東京本社管理部　担当部長
（公財）真田山陸軍墓地維持会　評議員